

# 高砂市 文化財総合的把握モデル事業 中間報告会



竜山石切場



県景観地区 高砂みなとまち

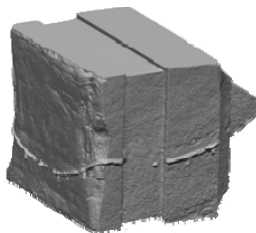


曾根塩田かつての風景

日時：平成21年7月3日(金)  
場所：高山市図書館生涯学習ホール

兵庫県 高砂市教育委員会

# 歴史文化基本構想・関連文化財群イメージ



石の宝殿

## 石の文化



石仏

全国有数の歴史を誇る竜山石切場で生産された竜山石で形成された文化財群。古代から現代に至るまで、生産と消費が市内で展開され、数多くの竜山石の文化財が保存されている。石の宝殿、石棺、石仏、建築、伝統技術など



神事

## 塩づくり

江戸時代から昭和40年代まで、沿岸部に塩田があった。曾根町には塩田を経営し庄屋もつとめた民家が保存され、周辺には江戸時代の町なみが残っている。

塩田地主民家、塩田跡地、伝統的の神事

## みなとのまち

江戸時代、加古川河口につくられた姫路藩の港町高砂。高砂町には現在も古い町なみが残されている。今市地区は旧加古川本流河口に形成された港町が残されている。

まちなみ・堀川、近代建築、石垣、みなとの祭礼

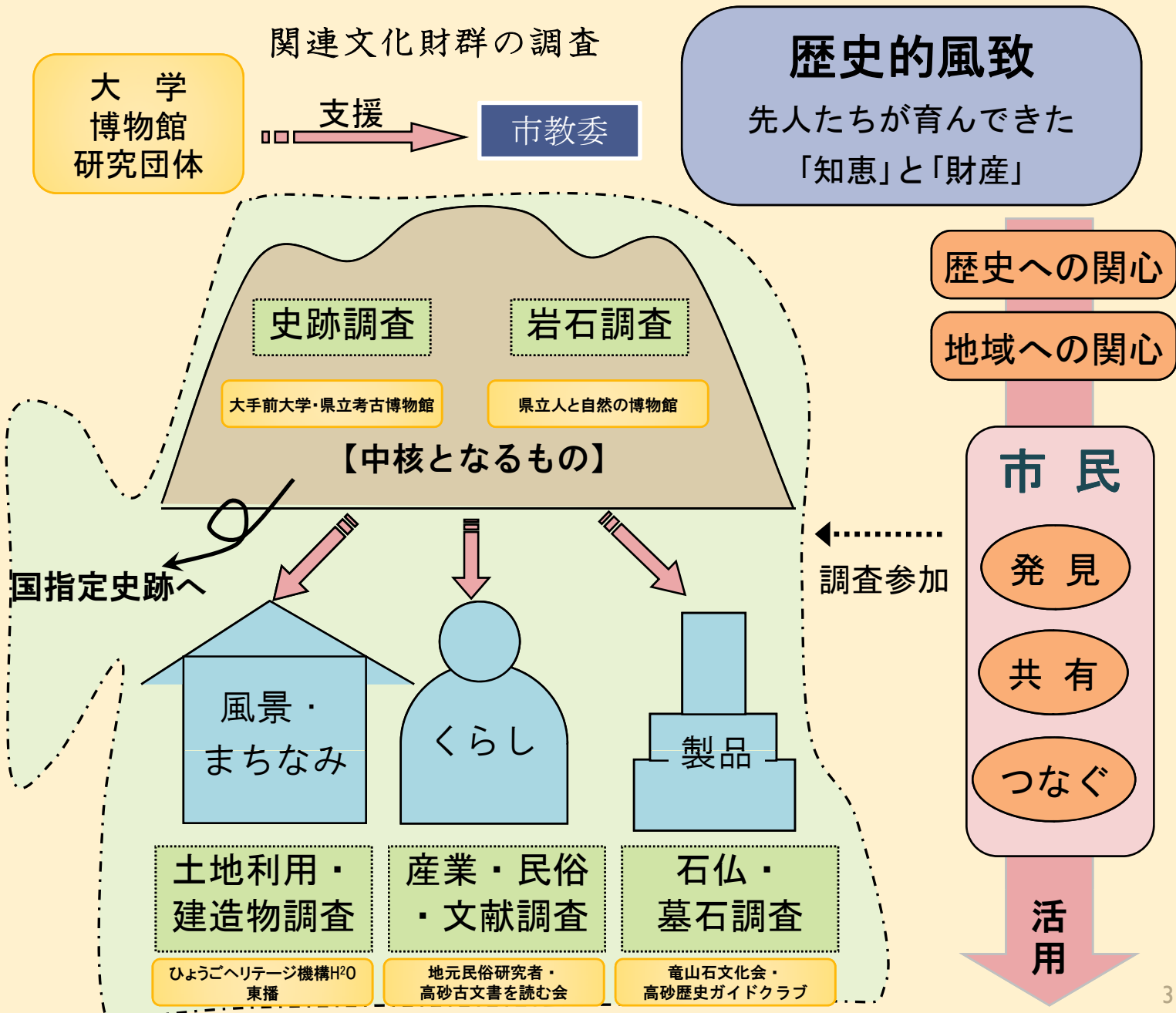


近世民家

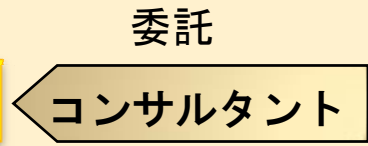
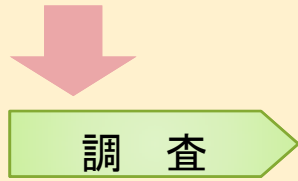
# 事業取り組みフロー

20  
年度

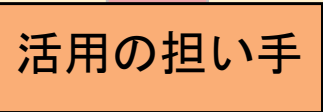
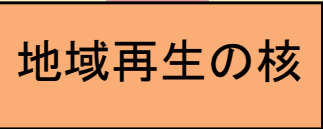
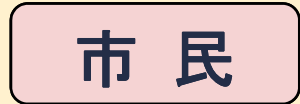
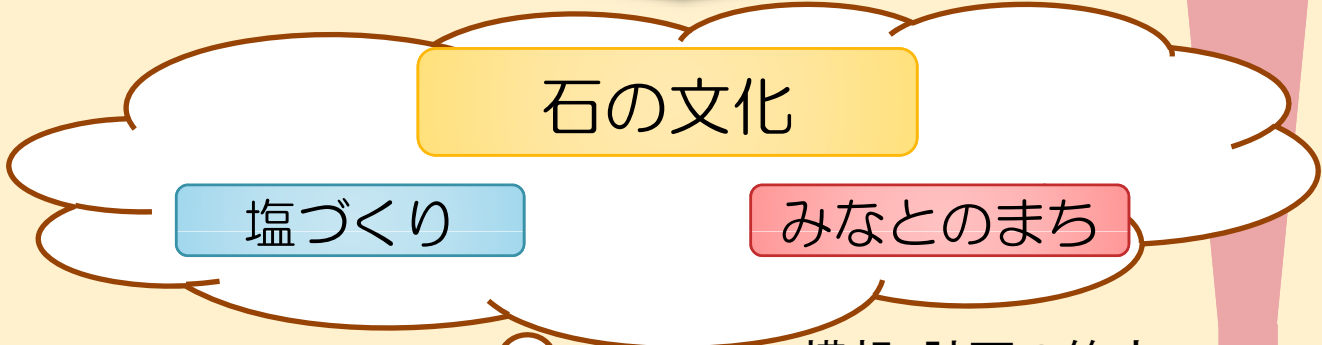
21  
年度



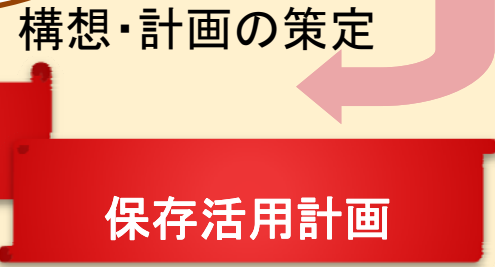
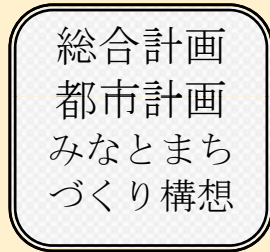
21  
年度



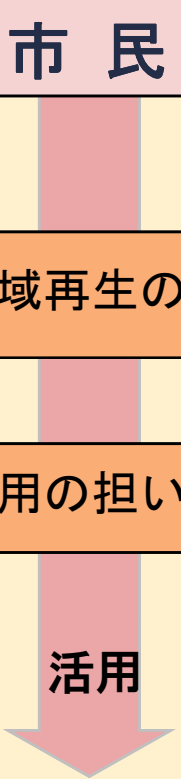
22  
年度



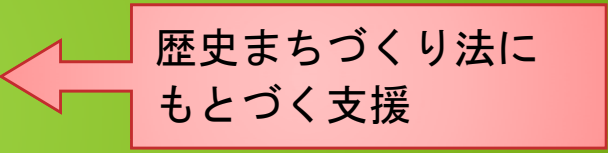
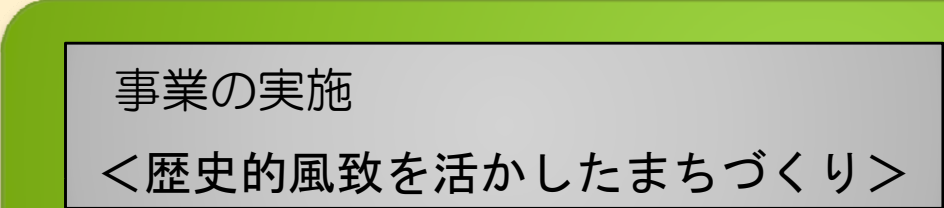
反映・連携



構想・計画の策定

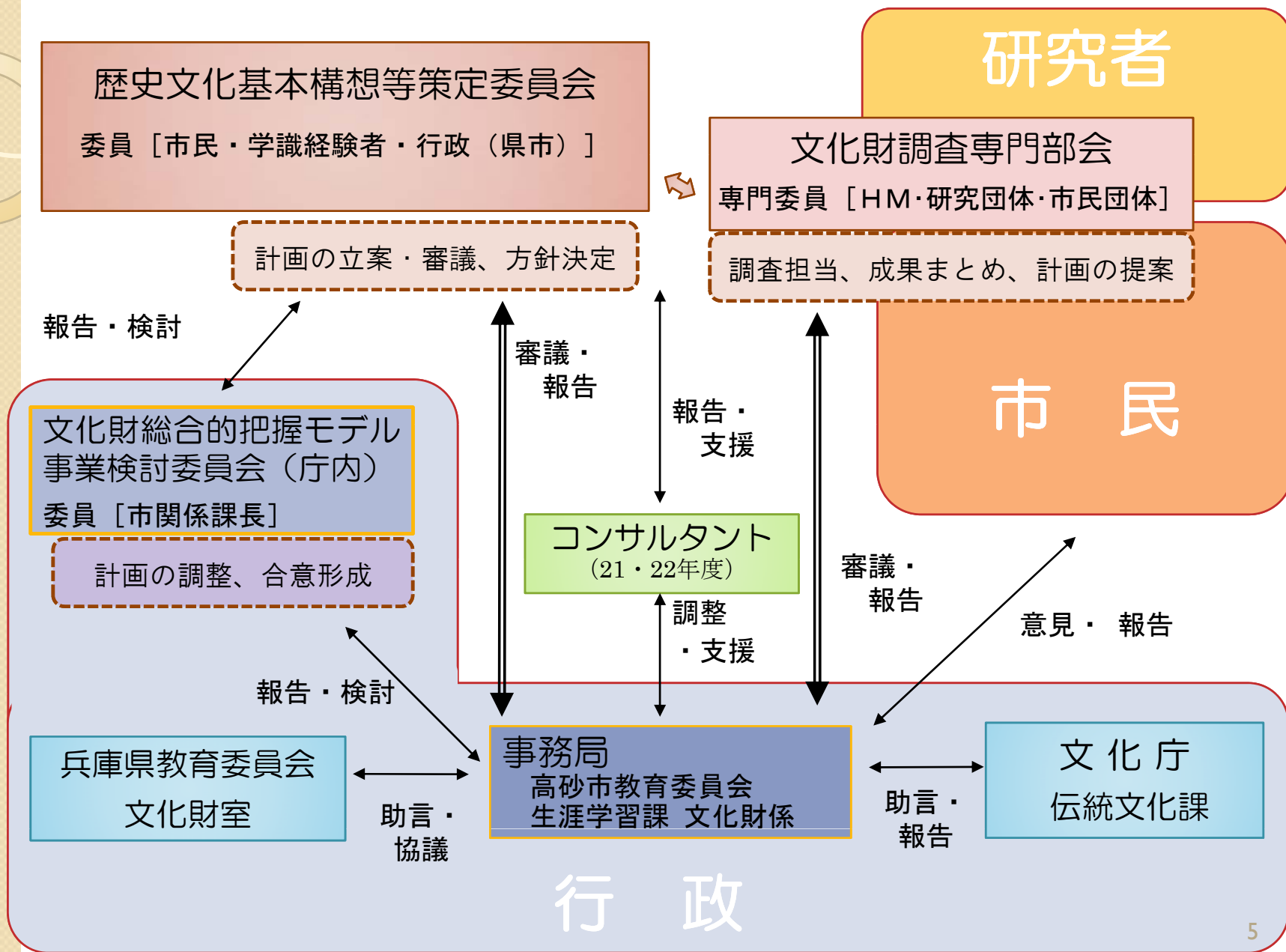


23  
年度  
以降



文化財・歴史文化遺産を活かした、新たな地域づくり・地域文化の創造へ

# 実施体制



# 現状と課題

## 1. これまでの取り組みとの違い

- ◎文化財調査は、行政・研究者主導ではなく、住民参加の文化財調査を実践。専門機関による支援との連携を図る。
- ◎石の文化をテーマに設定した。生産→流通→消費が市内にとどまらず全国に展開している。
- ◎全体の取り組み
  - ・文化財部局とまちづくり部局との連携は、はじめて。総合計画・都市計画など、全体構想・先行構想と位置づけしながら、文化財計画を立案するのは初めて。
  - ・歴史愛好者など特定の団体だけではなく、幅広い市民をターゲットにする取り組みである。

## 2. 苦労した点・問題点

- ◎市組織全体での取り組みが初めて。他部局からの拒否反応。☞ 庁内委員会で調整中。
- ◎文化財調査体制。市民主導の度合い、団体との協議交渉など。☞ 調査しながら意見調整。
- ◎総合的把握に向けた悉皆調査の精度をどのレベルまであげられるか。  
☞ モデル事業後も継続できる実施方法・体制を構築。

## 3. 委員からの指摘事項

- ◎一部の愛好者にとどまらず、より多くの市民に広げる、意識してもらう。  
＜市民からみた文化財に対する意識のちがい＞ ☞ 現地説明会・フォーラムで周知を図る。
- ◎市全体としてのまちづくりにむけた取り組みへ。☞ 他計画と整合性を図る、市民周知へ。
- ◎人と素材をどう結びつけていくか、人がどうからんでいくか。☞ これからの大きな課題。